

議会報告会（令和7年7月）報告書

開催日時	令和7年7月13日（日）午前10時から11時30分まで		
開催場所	舞鶴市役所 本館4階 議員協議会室		
参加市民	9人		
出席議員	肝付隆治（議長） 野瀬貴則（副議長） 山本治兵衛（議会運営委員会委員長） 川口孝文（議会運営委員会副委員長） 上野修身（自民党鶴政クラブ議員団） 田畑篤子（新政クラブ議員団） 廣瀬昇（超党・市民ファースト議員団） 松田弘幸（公明党議員団） 小西洋一（日本共産党議員団）		
			合計9人
内 容			
【全体概要】 1 開会（副議長が司会進行） 2 開会挨拶（議長） 3 実施要領説明（副議長から当日の内容と進め方を説明） 4 6月定例会の概要説明（副委員長から6月定例会の概要を説明） 5 各会派からの発言（各会派から議案に対する賛否等について説明） 6 質疑応答（4と5についての質疑応答） 7 意見交換（「みんなで支え合う地域づくり」について意見交換） 8 閉会挨拶（議長から閉会の挨拶） 9 閉会			
【議会からの説明事項】 《3月定例会の概要》 ・ 審議した議案の内容と議決結果（市長から提出された議案、委員会・議員から提出された議案、市民の皆様などから提出された請願、賛否が分かれた議案等）			
【質疑応答の概要】 Q. 地域の活性化や防災などの面で新幹線が必要だということは理解できるが、人口減少が見込まれる中で、どのような政策が必要と考えているか。〔参加者〕 A①. 北陸新幹線の舞鶴ルートの誘致運動をしてきたが、結果的には、小浜・京都ルートに決定し、それ以降は、山陰新幹線について、国への要望なども実施してきている。日本海側の国土強靱化、リダンダンシーの確保といった観点のほか、国防や海の安全を担う機能が舞鶴市に立地しており、利便性も踏まえて、新幹線が必要であると考えている。〔上野議員〕 A②. 決議については、時期尚早ということで反対したが、舞鶴ルートは望んでおり、新幹線があると、人流・物流が活発になり、人口減少を食い止められるものと考えている。〔松田議員〕 A③. 新幹線そのものが、もういらないと考えており、このような大型公共事業に税金を使うのではなく、防災事業にシフトすべきだと考えている。20年後には子供の数が今の約半数になるという少子化の中で、大きな負担を残すことには反対で、在来線の充実強化こそ必要だと思う。〔小西議員〕			

Q. プレミアム商品券については、スマホやパソコンなどがない人もいる中で、公平に実施されると思うか。また、賛否等の説明の中では、往復はがきと言われたが、そのようなことは、どこにも書かれていない。行政と議会に認識のずれがあるのではないか。〔参加者〕

A ①. プレミアム商品券については、委員会でも議論があった。それでも、市民の皆様にしっかり周知して、少しでも多くの方にお渡しできるように努力すると答弁されたので、私たちは賛成した。〔田畑議員〕

A ②. 委員会の審査においては、往復はがきという説明で、それ以上の答弁はなかった。1人1セットとすることや、暑い中、販売場所へ並んで、それでも買えないというようなことがないように、抽選販売とするなど、公平に行き渡らせるための方策が考えられている。スマホから自分でできない人は、他の人に依頼して申し込むことができるということも含めて、新たな方法で混乱が生じないように、しっかり周知するようお願いしている。〔松田議員〕

Q. 当初30%であったプレミアム率が、物価上昇等を理由に50%へ引き上げられたが、30%のままで枚数を増やしたほうが、たくさんの人に行き渡るのではないかという意見もあった。市民の皆様は、どのような御意見か。〔田畑議員〕

A. 広く行き渡らせてほしい。年金生活の高齢者に対して、お米券を渡すくらいのことをしてほしい。〔参加者〕

【意見交換の概要】

《テーマに関する内容》

□ 重層的支援体制の構築においても、地域で支え合うことが重要だと民生委員の立場からも感じている。実際の体験として、ケアが必要な高齢者のケアプランができるまでの間、地域でゴミ出しや買い物、入浴などのサポートをしたことがある。このためには、基本となる自治会組織がしっかりしていないといけないと思うが、それが崩れてしまっていると感じている。重層的支援体制の前提として、包括支援センターがどういう情報を出せるのかといったことも整理してほしい。〔参加者〕

◇ 重層的支援体制は、本年から本格始動したところで、対応される相談員や職員の皆さんも、様々な問題に対応して解決を図っていく必要があり、市は、地域の皆さんと一緒に取り組んでいくとされているので、そのように進められていくと考えている。〔廣瀬議員〕

◇ 議会の役割として、今言われたようなことにしっかり取り組んでいるかということを確認し、一般質問などを通じて、改善などを投げかけることが必要。ただ、行政にも限界があり、地域に住む人たちに、どういう意識改革をしなければならないか、地域のつながりをどうやってつくっていくのか、行政が働きかけても住んでいる方々が感じられないと、結果として現れてこない。

大災害が起こったとき、物資供給があった際に、地域のコミュニティがバラバラで、取り合いになってしまって、均等に分配できなかったということもある。それが大きな問題だと気付いたところは、何も言わなくてもしっかりした組織が出来上がる。行政は、そういう事例も含めてしっかり伝えなければならないし、地域の皆さんが、自分たちでどういうことをやればいいのかということをお考えいただきたい。〔肝付議長〕

□ 他市では、市民憲章というものがある。市民の理想や行動指針を自治体が定めた宣言的な文章で、市民にこういう考えを持ってほしいという場合は、市民憲章のようなものをつくって、理想はこうだから、こういうふうに動いてほしいというものがあれば、市民にも浸透していくのではないかなと思う。〔参加者〕

◇ 全くそのとおりで、私も一般質問で2回言った。9割の自治体に市民憲章があるという中で、それがまちで、西だ東だと言っていないで、1つのまちとしての意識をつくっていかないとダメじゃないかと質問したが、市は、あまり意味

を感じていないように思う。2回目に質問した際には、検討すると答弁があったが、1年経ってもできていない。私も市民憲章は必要だと思っている。〔肝付議長〕

- 一番の母体は自治会だと思っているが、ご存知のように、会員が減っている。他にも、例えば育友会も会員にならない人がいる。そうすると、その子供が行事に参加できない。そのほかにも地域の団体はあるが、市は、それらの実態をしつかり掴んでいるのか。

また、自治会同士などの横のつながりが無い。横のつながりで様々な活動のヒントも得られるので、そういった点も考えてほしい。〔参加者〕

- ◇ 私の住まいは田舎のほうなので、自治会組織は案外しっかりしていると思っている。ただ、平均年齢が高くなり、以前のような活発なコミュニケーションがとれていないと感じている。若い世代が少なくなっている中で、どうやって盛り上げていくかということに悩んでいる。〔上野議員〕

《テーマ以外の内容》

- 防災に関する基本的な考え方は、自主防災がメインになっているが、内閣府からは、地域防災の考え方が出されており、これを広く理解してもらう必要があることから、議会の意見交換の場でも言わせてもらったし、以前にも危機管理担当部署に話をしたこともある。しかしながら、先日、市の担当の方々に集まっていただいて話をしたところ、初めて聞いたという人もいた。市民からの意見の引き継ぎが行われていないというのは、大きな問題だと思う。〔参加者〕

- ◇ 「市民と議会のわがまちトーク」において、御意見をお聞かせいただいた。また、紙で受け取ったものも、委員会で共有している。意見が繋がっていないということについては、組織の在り方の問題だと考えており、現在、舞鶴市でも職員の体制等について議論されているところであり、議会からも必要な意見は述べていきたい。〔山本委員長〕

- 防災に関して、市と防災士との連携・協力は、どのようにされているのか。〔参加者〕

- ◇ 総務消防委員会において、防災に関する調査等を行っている。市の取組状況も確認しており、防災士の養成や、防災士に地域の防災講座の講師をしてもらうなどの取組があるが、まだ、浸透しているとか、十分に力を発揮してもらっているというところには至っていないと感じている。〔川口副委員長〕

- 議員の中に防災士はいるのか。〔参加者〕

- ◇ 議員の中にもいる。〔野瀬副議長〕

- 幼少期からの郷土愛の醸成が不足しているのではないかと。舞鶴市の成り立ちや経緯、歴史的な考え方など、学校教育の副読本にもない。舞鶴で育つ人には、舞鶴市がどういうものかを理解してもらいたい。〔参加者〕

- ◇ 教育の問題は難しく、文部科学省の学習指導要領に沿ったものでないと、独自のものは、なかなかつくりにくいということもある。他市では、災害を教訓に、防災についての教育課程を独自につくっているところもあり、それも郷土愛の醸成につながるのではないかと。〔参加者〕

親も含めて、舞鶴には仕事がないと言い切ってしまうと、大学を卒業したあとに戻ってこないということもあるが、舞鶴市としては、決してそうではないということも広く伝えるように努力している。郷土愛の醸成という面では、私たちも検討していきたい。〔小西議員〕

- 舞鶴市議会のYouTubeなどは、敷居を下げるために取り組まれているのだろうと思っており、私も見ているが、アクセス数が伸びていない。やっているが市民に響かないということは、もっと共感を求めてアピールする必要があるのではないかと。もっと敷居を下げていく努力をしてほしい。〔参加者〕

- ◇ 「開かれた議会」や「効率的な議会運営」などに取り組んでいる中で、市民の皆様への関心を高めていくことにも取り組んでいるつもりではあるが、まだまだ十分ではないという御意見なので、真摯に受け止めて検討していきたい。〔山本委員長〕
 - ◇ 御意見は、おっしゃるとおりで、自前でのYouTube動画の作成に工夫しながら取り組んでおり、先日は、会派紹介なども配信した。少しでも興味を持ってもらえるような内容を考えていきたいので、コメント欄にでも御意見をいただければありがたい。〔野瀬副議長〕
 - 行政と議会に二元代表制が成り立っておらず、車の両輪として、しっかりと噛み合っているようには感じられない。また、議員に質問を出しても返ってこないなど、市民と議会の間にも壁があるように感じる。〔参加者〕
 - ◇ 議員は、議会の中で、議会運営のルールに従って議論する立場にあるが、私たちも市民で、地域で暮らしている。議員によって違いはあるが、私たちは、地域の中で、お節介なおばちゃん・おっちゃんになったりして、立場を越えてつながっていかうとしている。医療のことも地域のつながりのことも、その時々に関わる方々とお話をしている。議員だからといって特別視せず、どんどん議員をうまく使っていただきたい。お互いに垣根をなくし、いろいろなお話ができれば、それを行政に伝える役割があるため、こうした場に限らず、普段からいろいろなお話をさせていただきたい。〔田畑議員〕
 - 議員と市民との間に垣根があるというお話があり、確かにそういうところはあるが、私自身の経験で、夜遅い時間に同じ町内の高齢者の体調が悪くなり、救急車を呼ぶほどではといわれたものの、このままではどうすることもできず、相談するところもなかったため、医療関係者であった議員に連絡したところ、すぐに駆けつけていただき、その高齢者の不安を取り除いていただいた。私の地域にお住まいの議員ではなかったが、地域などは関係なく活動している議員もいるということをお願いしておきたい。〔参加者〕
 - 市議会だよりは、新聞折込になっているが、新聞をとっていない世帯も増えているため、京都府や市の広報誌のように、各戸配付をする考えはないのか。〔参加者〕
 - ◇ 過去に、市の広報誌と同様に、シルバー人材センターに委託できないかを調整したことは、何度かあるが、経費面がネックで、そのために内容を削らなければならなくなるため、断念した経過がある。御意見は受け止め、改めて検討したいと思う。〔野瀬副議長〕
 - ◇ 付け加えさせていただくと、シルバー人材センターで配布する人の確保が困難だということも言われており、経費面と人材面で実現していない。〔田畑議員〕
- ※ アンケートに記載いただいた質疑・意見とその回答は、別紙に取りまとめています。

【総括】

前回（第1回目）は、平日の夜間に開催し、今回は、日曜日の午前で、単純な参加人数だけでいうと、前回よりも多くなったが、前日の「議員定数に関する意見交換会」においても、議会報告会は知られておらず、周知・広報が十分ではないと思われる。

今回は、意見交換のテーマを絞り、テーマ以外の意見も出されたものの、自治会組織や市民憲章に関係する御意見などをいただき、市民の皆様の多様な意見を的確に把握することについて、一定の効果があったものと考えている。

今後も、より良い意見交換の場となるよう改善や工夫を重ねながら、毎定例会の翌月（次回は令和7年10月開催）を目途に、継続的に開催する。